

国際会議あれこれ

＝18名の海外委員＝

海外委員はスウェーデンが5名と最も多く、ヨーロッパからデンマーク、オランダ、イギリス、ドイツ、オーストリアと幅広く参加された。またアメリカからも4名（車いすを使用される委員2名含む）、さらにニュージーランドからも参加者があった。所属としては大学、国の試験研究機関、企業と幅広い構成であり、それぞれ福祉用具に取り組む誇りと自信が強く感じられた。

＝テクニカルツアー＝

会議の中間日（5月22日）にテクニカルツアーとして、2施設の視察を行った。

最初に日本の車いすの試験研究機関の代表として当技術研究所を視察した。各種品質評価試験設備を見学し、さらに技研が開発したアームサイクルに試乗し多くの質疑がなされた。

次に野外民族博物館「リトルワールド」を訪問し、学芸員の説明の下に、世界各地の民族学資料と民家を視察した。

＝レセプション＝

レセプションはテクニカルツアーの終了した夕刻より、名鉄犬山ホテルにて、通産省を始め約70名の参加者を得て盛大に開催された。主催者側の挨拶の後、地元犬山市の市長の乾杯の音頭によってパーティが始まった。途中アトラクションとして、岐阜県の東白川村役場の「檜茶太鼓」演奏があり、その日本的な雄大さと、シンセサイザを加味した現代的演奏に海外委員は酔いしれた。その後海外委員の太鼓たたきのチャレンジもあり大いに盛り上がった。



＝そのほかに＝

「ジャパニーズティーパーティー」として一日茶席を開設した。お茶の作法に基づき、お抹茶の味を体験され、同行した家族の方達も興味を持たれ、楽しい異文化交流となった。

国際会議という重要な会議での熱心な議論を離れて、日本の車いすとその評価機能の見学、さらに日本の生活、文化に触れることによって日本の福祉用具への関心を高めたものと思われる。一方日本の関係者も海外委員との交流によって得るものが多かったに違いない。

